

広島県安芸高田市立 小田小学校

発表者：平栗菜江、丸田優

先生：田村裕子



私たちの小田小学校は、標高800mの大土山の裾野原にあり、豊かな自然に囲まれた、全校児童76名の小さな小学校です。私たちの住んでいる安芸高田市は広島県の中北部に位置し、大小様々な山に囲まれ、市の面積の約8割を森林が占めています。



遊々の森は、小学校から約4km山道を登った国有林で「わくわく高地の森」と名付けられ、甲田町の3つの小学校と1つの中学校が利用しています。

今まで、シイタケ菌をうったり、森林インストラクターに樹木の名前や特徴を教えてもらい、クイズに答えて『樹木博士』になる活動をしてきました。



森林教室



ハチトラップ



いのしの足跡



鹿が角をこすりつけた跡の残る幹

森の中では、蜂をとる「ハチトラップ」というしかけや、イノシシの足跡や、鹿が角を木にこすりつけた跡が残る幹が見られました。



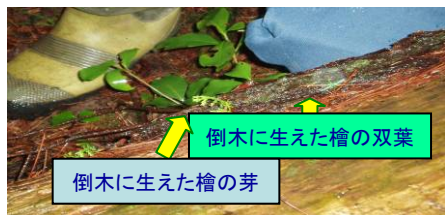
檜の双葉

ヒノキの双葉も観察できました。

今年は、広島北部森林管理署に森林教室を開いてもらい、森の役割についての紙芝居を見たり、わくわく高地の森を散策したりしました。



森の中ではいろいろな鳥のきれいな鳴き声が聞こえました。小さな笛をふくと鳥が近くまで来て鳴きました。雨の日でしたが森の中では地面がふかふかのスポンジみたいになっているので雨水が地面を流れることはありません。森は吸い込んだ水を一気に流すことなく少しずつ川や湖に流すそうです。わくわく高地の森に行って、森林の大切さや気持ちよさに少しは気づけたなと思いました。



倒木に生えた檜の双葉

倒木に生えた檜の芽

倒木にもヒノキの芽が生えていました。倒木から栄養をもらって芽が大きくなるそうです。



6月に間伐された木やいろいろな木などを使って、オブジェを作りました。私たちの学校には運動場の続きにととてもすてきな築山があります。



休憩時間は野花を摘んだり探検したり鬼ごっこをしたりして遊んでいます。



午前中は築山に置くための遊具を作りました。子どもが乗れる汽車とダックスフンドのベンチを作ることにしました。汽車やダックスフンドの胴体となる丸太とそれを支える車輪や足を接着するために、接着部分を平らにしないといけないので、講師の先生や森林組合の方にチェーンソーで少し切れ目を入れてもらい「ノミ」という道具で少しずつ削って平らにしました。

私たち6年生は、この場所にベンチなどの遊具があるととっても楽しいだろうと考え、卒業制作として木のベンチや置物を作ることを計画しました。木のオブジェ作りをされている「のんき工房」の方を講師に迎え、森林組合の方に協力していただきオブジェ作りをしました。





汽車の車輪やえんとつ、ダックスフンドの足や顔になる木を探して適当な大きさに切り、胴体にビスでつなぎとめていきました。ビスも手作りです。つけたところの両方にドリルで穴をあけ、その穴の大きさに合う木をみつけ、先を削ってビスを作ります。



両方の穴に、建築用のボンドを入れた後、ビスを入れ、木槌などでたたいて、しっかりとつなぎあわせます。午前中でほぼ完成しました。できあがったダックスフンドベンチに一番先に乗れたのがうれしかったです。



汽車



汽車は屋根を支える木が曲がっていて、さしこむのが大変でした。汽車の後ろに人形を置く台もつけました。



午後は、築山に置く他の遊具と動物の人形を作るため築山と図工室に分かれて作業しました。みんな、いろいろな人形を工夫して作っていました。



できあがった作品は築山のオブジェにのせたり、校内にかざろうかと話し合っているところです。

お母さんたちは、朝から人形を作っていました。木の曲がったところを腕に見立てるなど木の特徴をうまく使って作っていて、すごいなあと思いました。



次の日から下級生が遊んでいました。一生懸命つくったもので遊んでくれて嬉しかったです。これからも、このオブジェはいろいろな人に使ってもらいたいし、少しでもみんなの安らぎの場・自然、森を感じられる場になってほしいと思っています。



今、人間は、道具よりお金を使っています。もっと上手に道具を使いましょう。

無駄になるものは、一つもありません。



最後に活動を通して、森の中では、倒木に残っている栄養が新しい命を育てていました。もし芽を芽生えさせることができなくても、倒木はいつか土にもどり、森全体の栄養になるので、必ず何かの役にたちます。廃材を利用したオブジェ作りも、何も無駄にしない森の営みと一緒にだと思いました。今まであまり関心なかった森や木について関心を持つようになりました。自然のすばらしさ、大切さを感じました。これからも、自然にかかわっていききたいと思いました。



遊々の森



香川県高松市立 屋島東小学校

発表者：溝淵侑里奈、吉田あかね

先生：篠原和隆

源平屋島の森



私たちの屋島東小学校は、屋島山の東側にあり、歩いて15分～30分位で学校の上の森に行くことができます。

私たちがよく行くのは「ゆうゆうの森」です。坂を上る時は、とてもしんどかったけど森に着くととても気持ち良かったです。

それから、地域の人達と一緒に植樹した自分の木がある「源平屋島の森」もすぐ近くです。

下草刈りの様子



葉っぱじゃんけん



きち作り



「ゆうゆうの森」には、3・4年生になると春の校外学習で遊びに行きます。

これは、今の6年生が3年生の時に葉っぱじゃんけんをしたり、基地を作ったりして遊んでいるところです。

うらしま草



かなへび

とんぼ

森は木陰になっていて涼しいし、面白い草や生き物があるので、いつまで遊んでも飽きません。イタドリをかじったりタケノコを掘ったりもできます。イタドリはちょっと酸っぱくて、タケノコはコリコリとして美味しかったです。

ハンモック



ブランコ



木登り



つるで輪投げ



私たちも、木にハンモックやブランコやロープをつるして遊びました。他にも木登りをしたりツルでわかを作り、落ちていた枝を土に刺して輪投げをしたりしました。

いたどり



たけのこ



柿とり



干し柿作り



黄門様のつえはふし竹から、炭やお酢も竹からできることを知りました。その竹を使って高い所にある柿を取り、干し柿作りにも挑戦しました。渋柿だったのに、甘く美味しくできました。

かご作り



ばち作り



紙玉でつぼうづくり



竹とんぼ

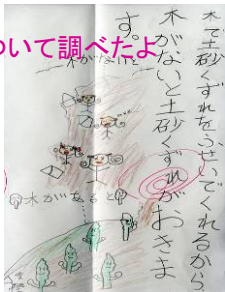
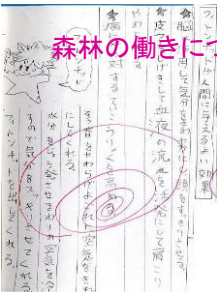
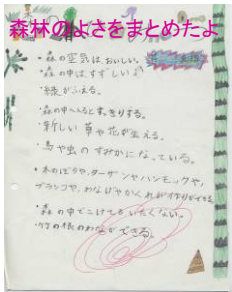


森は、そこで遊ぶだけでなく、生えている植物を利用して私たちの生活に役立つものを生み出すこともできます。私たちは3年生の時、地域の方に教えていただきながら、竹から紙玉でつぼうや太鼓のバチを作りました。切り出しナイフを使うのは初めてだったけど、地域の方と一緒に作って最後にみんなでお囃子をしたのが良かったです。

ツルを編んでかごを作ったりクヌギの木にシイタケ菌を植えてシイタケ栽培をしたりしています。かごを作る時は、たくさんのツルを使ったのでびっくりしました。シイタケ菌を植える時、ドリルを使ったのが良かったです。

しいたけ菌の植え付け





森から多くのものをもらった私たちは、4年生になって自分たちが味わった森の良さをまとめ、他にもないか調べることにしました。
 すると、土砂崩れを防ぐこと、砂や風やなだれを防ぐこと、フイトチツドという気分をさわやかにする物質を出すこと、空気を綺麗にすること、魚を呼ぶことなどたくさんの働きをしてあげていることが分かりました。



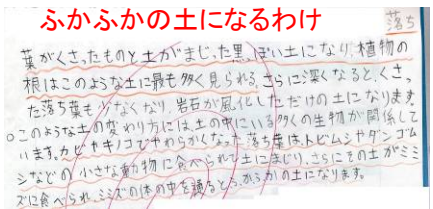
なかでも、森の土が水を蓄えるスポンジになると知り、そのしゅみを調べるため森林管理事務所の方と実験をしてみました。学校の運動場の土と森の土を比べた実験をご覧ください。この実験で、どうして雨が降ったら運動場が池のようになるのか、山の土が水を吸い込むことができるのかがよく分かりました。



土壤実験中



森林の土のすごさを発見



また、植物と動物が関係し合って、ふかふかの土を作り、森林の働きを助けていることも分かりました。



へんろ道登山

今、4年生はこんな大切な働きをしている森林を守ろうと植樹する計画を立てています。屋島の山は、松食い虫にやられて松の木が枯れたり、車が通るドライブウェイができてゴミが増えたり、山の土地を利用しようとしている人が減ったりして困っていたと地域の方から聞きました。屋島東小学校では、毎年4年生がそんな山を守ろうと「ゆうゆうの森」に植樹を続けています。



森に木を植えよう

どんぐりを拾いに行ったり



全校生に呼びかけました



集めた「どんぐり」を選別

私たちが植樹する苗木をもらうため、活動しました。山にどんぐりを拾いに行ったり、全校生に協力を呼びかけたりしてどんぐりを集め、どんぐり銀行に貯金して冬にクヌギの木を植えようと頑張りました。



H14年度 植樹

植樹した木の生長



H15年度 植樹



H16年度 植樹



H17年度 植樹

今まで先輩たちが植えてきた木の下草刈りもしています。4年前に植えられた木はもうこんなに大きくなっています。そして、1月末にある壇の浦学習発表会では、森林の素晴らしさをお家の人や地域の方に発表したりパンフレットを配ったりして伝えることができました。

わたしの木



冬に植えた「源平屋島の森」の自分の木の成長も楽しみです。

これからも自分たちが住んでいる町にある私たちの森を、いつまでも見守っていきたくと思います。

一人一人が自分の木を

熊本県熊本市立 託麻原小学校

発表者：内田歩、丸住結乃

先生：西橋美穂



五木託麻原の森

私たちの学校林「五木託麻原の森」は、学校から車で2時間、川辺川ダムで有名な五木村にあります。村の所有ですが協定を結んで活用しています。



学校林の始まり



昭和60年11月3日 植林

今から22年前、造成した土地に児童・保護者など約80名が参加してヒノキ・スギ・クヌギやキハダなど約600本を植樹したのが始まりです。その後、下刈りや枝打ちなど、森林の手入れを兼ねて、毎年、森林体験キャンプを行ってきました。



20年が経過した学校林

20年経つうちに樹木は大きくなり林内も暗く地面がむき出しの状態でした。しかし昨年は「学びの森活動推進事業」の助成を受け森林組合に整備を頼みました。おかげで学校林は見違えるようになり、私たちの活動も充実したものとなりました。



間伐体験



森林組合の指導で間伐を体験しました。鋸で切るのは難しく、なかなか切れませんが、ロープを掛けてみんなで力を合わせて引くと音を立てて木が倒れます。上手く倒れると嬉しくて歓声が上がりました。



遊歩道づくり



丸太のベンチづくり

遊歩道も造りました。鋸で削ったり、丸太を並べたりしたので、滑らないように用心しながら移動していた斜面も歩き易くなりました。間伐材の丸太に鋸を打ち付けてベンチも造りました。



自然観察会



落ち葉のマット作り

県の森林インストラクター会の指導で自然観察会も開きました。近くの遊歩道を歩きながら、樹木や草花の特徴や見分け方について話を聞き、拾った落ち葉でマットを作りました。



樹木札作り



樹木名や説明書き

学校林でもアドバイスをもらい樹木名や説明文を書いた手作り木の札を下げました。ミズナラなど熊本市では見られない木が学校林にはたくさんあることが分かりました。

貴島先生のお話



学校林に詳しい先生から学校林ができた頃の話や五木村の自然について話を伺いました。

川を堰き止めてのヤマメつかみ、竹箸作り、ペットボトルを利用したキャンドル立て作り、肝試しやバーベキューなど楽しい活動をたくさんすることができました。



遊々の森「よかよか金峰の森」

遊々の森活動は熊本市の西側にある「金峰山」は国有林です。市の教育委員会と協定を結び、一部の約340haが、遊々の森「よかよか金峰の森」に指定されています。金峰山少年自然の家があり熊本市の5年生は2泊3日の集団宿泊教室を開きます。



森林自然探索



炭焼き小屋

森林自然探索では、遊歩道を歩きながら森林の話や樹木の説明を聞きました。途中、炭焼き小屋を見学したり、眼下に広がる田畑や有明海を眺めました。いろんな植物の名前を知ることができてよかったです。



有明海



ヘマソカズラ



森林環境学習



間伐
枝打ち見学

昨年、私たちは森林環境学習を行いました。約150名の児童を6班に分け九州森林管理局や熊本森林管理署の約20名の方々の指導で、いろいろな体験学習を行いました。

自然探索の途中で間伐や枝打ちなどの作業を見学しました。健康な森林とはどういうものか、なぜ間伐が必要なのかの説明を聞き、とても分かりやすかったです。枝打ち用の柄の長い鋸を見るのも初めてでしたが署員の方が大きなヒノキをあっという間に倒された時はびっくりしました。



丸太切り



クラフト



伝え・広げ
深める

みどりの集い

学校林は遠いので全校児童が気軽に行くことは出来ません。遊々の森の活動も5年生だけの活動です。だから、体験活動に参加した私たちが自分の学びを深めるのはもちろんのこと、学んだことを伝え、広げる活動にも力を入れています。

自然の家の広場では、ヒノキの丸太切りを体験しました。直径7~8cmほどの丸太ですが力がいりました。きつかったけどおもしろかったです。その後、輪切りにしたものを土台にし自然探索の途中で集めたものを使ってクラフトを楽しみました。

託麻原小では、緑化活動やみどりに関して学んだことを発表し合う「みどりの集い」を10月に開きます。私たちは、森で体験し学習したことを、その集会で伝えました。緑の少年団は、学校林の紹介をしたり、森林の働きについて知らせたりしました。

学校でのベンチ作り

学校林の間伐材を生かす



持ち帰った間伐材でベンチを造り、校庭に置き皆さんに利用してもらうようにしました。

校庭の植物観察

校庭の樹木は約140種・2000本



5年生は、金峰山での活動や学んだことを1年生にも分かりやすく発表したり、金峰山周辺で見つけた植物が校庭にもあるか植物観察をしたりしました。

社会科の学習

くまもとの木を学ぶ授業



また、社会科の学習にもつなげ、熊本の林業についての学習後、ベンチを作りました。学校林や遊々の森では、実際に、森林に出かけ、ふだんの生活ではできないことをたくさん体験することができました。